

コロナ 5 類移行での変化

なくなった「仕切り」 会話スムーズ、交流も

職 場

「これでどうでしょうか」「すぐ確認するね」。紙製品や産業用包装用品の製造を手掛けるマルアイ(市川三郷町)の本社2階で、対面に机を構える社員がにこやかに会話を交わす。2人の間に透明なパーティションは見当たらない。

同社は2020年のコロナ感染拡大以降、社員の密集を避けるため、2階に集結していた部署の一部を別のフロアの会議室などに移動し

た。できる限り対面に座らないように席を配置し、パーティションも置いた。一日に3回、机やパーティションを消毒する時間を設けるなど徹底した対策を講じてきた。

パーティションは商談の場になる応接室の机の中央にも設置。広報課長の中沢夏希さんは「声が聞き取りづらい、資料が広げられないなど不便な面があった」と振り返る。

コロナの感染が落ち着いてきた状況に合わせ、今年3月から4月



中旬にかけて段階的に全部署を2階に戻した。席は対面になり、パーティションも撤去。広報課の深沢息吹さんは「パーティションがあると声がかけにくかった。今は気軽に相談しやすいコロナ前の職場に戻った」と語った。

社内イベントも復活した。コロナの感染症法の位置付けが「5類」

に移行したことで、5月中旬に北杜市内でパーベキューを開いた。県外の営業所に勤務する社員を含む約230人が参加。中沢さんは「コロナ禍でなかなか会えない社員もいたので開催できてよかった」と、社内外で「日常」が戻りつつあることの実感をかみしめている。

〈山本就己〉

パーティションが撤去されたデスクで言葉を交わす社員
市川三郷町市川大門